

福山市立大学ボランティアチーム(福山市立大学)

◎ チーム紹介

地域の歴史や文化を題材とした教材(紙芝居・リズム・運動あそびなど)を出前公演し、子どもたちと交流する。オリジナル教材「カッチンくん」(ペットボトルの底を再利用した楽器)は、造形活動から運動遊びまで展開できる教材として好評を博している。

◎活動内容など

♪リズム缶缶缶♪

*フケマニクス

歌詞やおどりに福山市の名産である

バラやぎた、くわいやコウモリなどが盛り込まれたもので、福山市がおどるうちに好きになってしまおう。そんなリズムおどりを。

子どもたちは笑顔いっぱいだったのほかに、おどるくわえました。

*ニヒリリズム

ペットボトルの底を使った「カッチンくん」という楽器を使って、福山城やホッケーなど様々なものを表現します。

小さい子どもから大人までみんな楽しんでリズムあそび。

子どもたちと一緒にカッチンくんをつくるところから始めました。

♪紙しばいの読み聞かせ

福山市立女子短期大学の先輩方が実際に大島空襲を体験した方のお話をもとにつくった作品を使いました。子どもたちと戦争のおそろしさを命の大切さ

平和のありがたさについて

一緒に考えられたいいひと

思い、気持ちをこめ、生き命

読みました。私達自身も平和

学習について考える大切な機会と

なりました。

『母子の八月八日』

『被爆あおきりさん』

□絵本の読み聞かせ

季節や行事にあわせて絵本を選書しました。外国の絵本を見て、日本の文化の異なる絵本と様々な分野の絵本に接触しました。

○ワクワク学び隊で学んだこと

ペットボトルの底を使ったカッチンくんという楽器を作らな活動することができた。その時、何せや、あげてい！、待たせてあげない！と思ってしまうが子どもたちの「うーい！自分でやりたい！」という気持ちを尊重して待たせてあげることが大切だと感じました。今までは、数人で輪になって作ることが多かったが、みんなが同じ向きに並んで行うほうが、子どもたちも見つかる作業がスムーズに行うことができたという発見があり、強く感じることもありました。また、完成するとどの子も嬉しそうに遊んでくれてカッチンくんが幅広く受け入れられることがとても嬉しかったのです。そしてどんな日も子どもと向き合い、子どもの目線に立って一緒に楽しむことが大切だと痛感しました。

○放課後子ども教室に関わる全てのみなさんへ

子どもたちとの距離がぐっと近く接し方も勉強になります。自分が実際にはやってみることでほいめさ気付くこともたくさんあり、次につながる良い土壌だと感じました。子どもたち同士も自分達で話し合ったり協力する機会になっていて、一緒に活動する中でいっしょに深く本音でいい機会を提供していただいているなと思いました。また、学生に対しては温かい迎えが待っているのだから、自信を持って私達に活動してほしいとお願いすることができ、得るものがたくさんありました。